

大野 乾 博士を悼む

本誌の国際編集顧問であられた米国の大野 乾先生が、去る1月13日に71才のお若さで亡くなりました。ここに悲しみをもって、会員諸兄弟にご報告申し上げます。

大野 乾先生は、近年2度にわたって染色体学会で特別講演をされておられますので、多くの会員が存じあげていた、名実共に細胞遺伝学の世界の権威であられました。

大野先生は、1952年に City of Hope Beckman Research Institute の実験病理学教室で研究を開始され、若くして雌性X染色体の1個は不活化されていることを証明し、遺伝学に新しい道を築かれています。

1966年から1981年の間は、同研究所生物学部長を務められ、性決定を調節する遺伝子と蛋白の研究を進められました。Scripps 研究所の E. Beutler 教授は、大野先生を「遺伝学の既存概念を変え、誰もが納得しうる理論を確立した偉大な科学者」と評価されています。1981年には同研究所初の Ben Horowitz Chair を受けられ、以来数々の国際的な賞を得ておられます。この頃から遺伝子配列を作曲化し、自らピアノ演奏をされておられたことは余りにも有名でした。

大野先生は、1949年に東京農工大学から獣医学博士を、1961年には北海道大学（牧野佐二郎教授）から理学博士号を得ておられ、米国で研究に当たる日本人学徒にとっては、まさに畏敬と憧憬の科学者でありました。

昨年は、3週間の日本旅行を楽しみ、その間皇居で両陛下にも講話をされました。年末には先生を記念した City of Hope シンポジウムが行われたと伺っております。

私事ですが、先生と比較的近い Los Angeles 郊外に居住していた私も、何度か魅力あるセミナーを拝聴し、お茶を共にしながらお好きであった馬のお話も伺ったものでした。

染色体学会を、なつかしい古里の一部のように想っておられた巨星が去られました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

理事長 沖垣 達